

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	稲田ゼミⅡ	チーム名	INA9 甲南
タイトル	復興にむけて1つになろう～FOR THE FUTURE～		
テーマ群	g) その他		
メンバー	片山剛 大原一晃 能津達矢 北村庄平 青木陽祐 今里匡成 中崎敬 辻克之		
研究計画内容	<p>私たちは、インゼミのテーマとして「東日本大震災からの復興」を選びました。最終的に自分たちなりの復興構想を発案するのを目的とします。なぜならば、われわれは、阪神淡路大震災を経験しましたが、復興の過程で、理念が実現できたものと実現できなかったものがあります。その経験を今回の震災の復興計画において十分いかされることを望むからです。</p> <p>まず宮城県、岩手県、福島県の被害状況を明らかにし、次に財源問題、復興計画に目を向けていきます。</p> <p>今回の震災の被害状況については、最も被害の大きかった東北3県の宮城、岩手、福島に絞って調査しました。今回の特徴は、地震だけでなく、津波による被害も甚大なものでした。特に福島県では、原発による放射能汚染の影響で県外への避難者の数が多かったです。これらの点をまとめて市町村別に地図と照らし合わせ、被害状況をグラフ化・数値化して比較しました。</p> <p>財源問題については、現在議論中のものも取り上げていきます。震災により多大な被害を受けた地域を再生するには、巨額の財源を必要とします。そこで、一体その財源をどこから捻出するのが課題となっています。現状では、復興増税や歳出削減は、避けることができません。私たちは、そのような現状に加えて今後の見通しもあわせて発表します。</p> <p>最も被害が大きいと思われる宮城県に絞って復興計画を考えます。宮城県の復興計画の基本理念をもとに、被害の大きい沿岸地域と県全体の取り組みに分けました。また産業別に復興計画の具体例を示します。震災以前から抱えていた問題を復興の過程においてどのように解決していくかが、重要なポイントとなります。</p> <p>これらの考察から、私たちは、自分たちなりに阪神淡路大震災の教訓を反映した復興構想を考え、発表します。</p>		